

目標Ⅳ

生徒一人一人の能力を最大限に 伸ばす学校づくりの推進

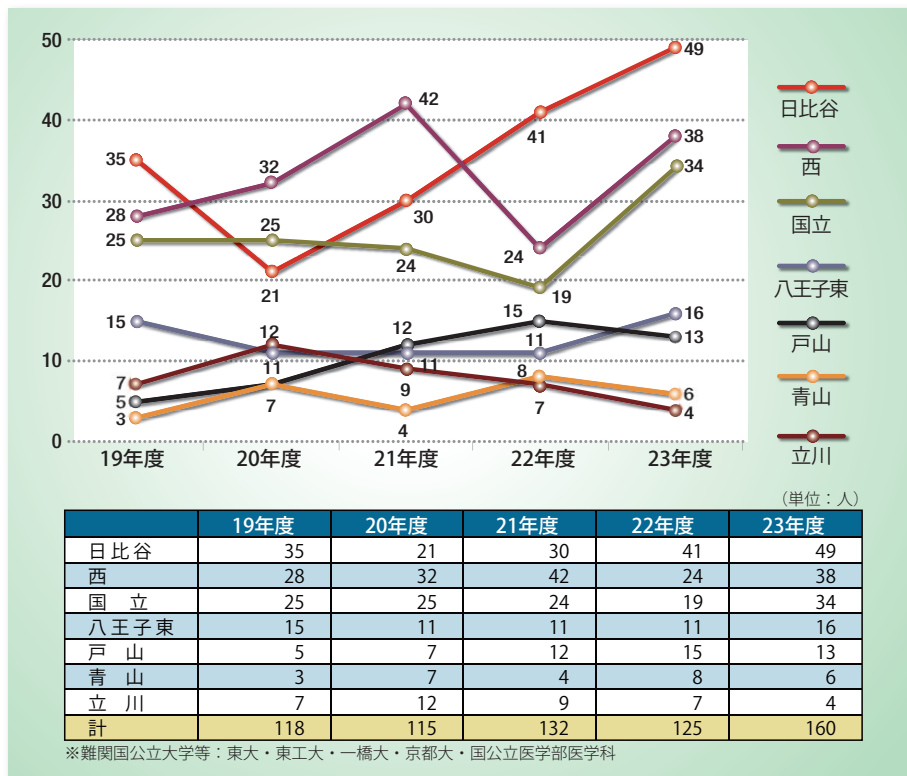
- 1 普通科高校の改善
- 2 専門高校の改善
- 3 定時制課程・通信制課程の改善
- 4 多様なタイプの学校の改善

1 普通科高校の改善

現状と課題

- 進学指導重点校7校^{*35}全体の難関国公立大学等現役合格者数は、指定以来、大幅に増加していますが、一部の進学指導重点校において大学進学実績が伸び悩んでおり（図9）、進学対策の一層の強化が必要となっています。

図9 進学指導重点校の難関国公立大学等の合格状況（現役）



- 学力は平均レベルで、生活面で問題行動を起こす生徒の数が少なく、学習指導や生活指導上の課題が比較的少ないと言われるいわゆる中堅校^{*36}では、学校の目標が明確になりにくいいため、学校の活性化が十分に図られていない状況があります。また、このような学校の生徒は将来についての目的意識が希薄な傾向が強く、生徒の職業的自立意識の醸成や進路指導の充実が重要です。
- 一部の普通科高校では、学習指導や生活指導上の課題を抱えた生徒が多数在籍している実態があり、生徒は高校段階で身に付けるべき基礎学力や職業観・勤労観が不十分なまま卒業を迎えるケースが多くなっています。
- また、進学だけではなく就職する者の割合が多い学校もありますが、普通科であるため職業科目の履修機会が少なく、職業生活を送るための基礎的な知識・技能に関する学習機会が不足しています。

^{*35} 進学指導重点校とは、生徒の進学希望を実現するとともに、将来日本社会のリーダーとなり得る高い資質をもった生徒が、理科系・文科系を問わず幅広い教科を学んで、難関大学への進学を目指す学校として、東京都教育委員会が指定した都立高校のことであり、平成13年9月に日比谷高校、戸山高校、西高校、八王子東高校の4校を指定し、平成15年11月に青山高校、立川高校、国立高校の3校を指定している。

^{*36} 中堅校とは、多様な都立高校が存立する中で、一定の学力を備えているが、難関大学への進学率は特に高くなく、また、学習や生活の基礎基本が十分に培われていないために生じる中途退学や生活指導による困難も多くない、全日制課程の普通科高校のこと。

改革の方向

(1) 進学指導の充実



進学指導重点校等において、将来日本社会のリーダーとなり得る高い資質をもった生徒の潜在能力を引き出し一層伸長させるため、引き続き、進学指導に関する支援を行います。

また、進学指導重点校について、学校の取組状況を勘案しながら、定期的に指定校の見直しを図ります。

ア 進学指導重点校等における進学対策の充実

進学指導重点校等において、生徒の大学進学希望の実現に向け、入学時からの継続的な進路希望調査の実施や模擬試験等の学力データの収集・分析を通じて、大学入試を見据えた3年間の綿密な指導計画を作成するとともに、質の高い授業の展開に向け、学校全体で一人一人の教員の授業力の向上を図ります。

具体的には、進学指導研究協議会参加校（進学指導重点校、進学指導特別推進校^{*37}、進学指導推進校^{*38}、中高一貫教育校）における授業研究、大学入試センター試験の分析、難関大学の入試問題分析集等の作成と活用、都立高校の校長経験者等からなる巡回指導員による学校への指導訪問、授業力向上セミナー^{*39}や外部人材による自主学習の支援といった取組のほか、進学指導重点校における新たな若手教員育成システム^{*40}による教員の育成などの多様な取組により、進学指導重点校等を中心とした都立高校の進学対策の充実を図ります。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
進学指導重点校等における進学対策の充実	難関大学の入試問題分析集等の作成、外部人材による自主学習支援など		進学指導のための取組の実施	

イ 進学指導重点校の新たな指定

現在指定されている進学指導重点校について、選定基準に対する平成23年度末までの適合状況を踏まえ、生徒の学力の伸長の度合いや取組状況などを総合的に勘案して、平成24年度

^{*37} 進学指導特別推進校とは、進学指導重点校レベルの進学実績を目指す学校を東京都教育委員会が指定した都立高校のことであり、平成19年6月に小山台高校、駒場高校、新宿高校、町田高校、国分寺高校の5校を指定している。

^{*38} 進学指導推進校とは、進学校の全般的な配置のバランスや地域のニーズなどを踏まえ、進学対策を進める都立高校の裾野を広げ、都立高校全体の進学対策を強化することを目的として東京都教育委員会が指定した都立高校のことであり、平成22年5月に三田高校、国際高校、豊多摩高校、竹早高校、北園高校、墨田川高校、城東高校、小松川高校、武蔵野北高校、小金井北高校、江北高校、江戸川高校、調布北高校、日野台高校の14校を指定している。

^{*39} 授業力向上セミナーとは、進学指導重点校等の教科担当者(国語・地歴公民・数学・理科・英語)が進学指導に対応した指導方法の理解を深め、進学指導に特化した授業を実施するための指導技術を学ぶことを目的として外部機関により実施されるセミナーのこと。

^{*40} 新たな若手教員育成システムとは、都立高校における進学指導の更なる充実を図るため、進学指導重点校での研修を通して、若手教員に進学指導特有の知識・技能を継承させ、将来中核となる教員を育成するシステムのこと。

に審査を行います。その上で、平成25年度からの進学指導重点校を新たに指定します。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
進学指導重点校の新たな指定	審査・決定	指定		


(2) 普通科中堅校の活性化

都立高校の多くを占める中堅校の活性化を図ることは、都立高校全体の活性化につながるものであり非常に重要です。これまでも中堅校では、それぞれの学校の学校経営計画に基づいて自律的な改革に取り組み、学校の個性化・特色化を目指してきました。今後も学校に対する支援を更に充実させ、各校の自律的な改革に向けた創意工夫を促すことにより、学習指導や進路指導、部活動などの各分野において一層のレベルアップを図り、生徒・保護者の多様なニーズに応える魅力ある学校づくりを進めていきます。

また、中堅校の生徒の多くが上級学校に進学する中、生徒が自らの将来を見据え、目的意識をもって次の進路に向かうことができるよう、キャリア教育の視点に立ち、生徒の進路意欲を喚起する教育活動を推進します。

ア 効果的なマネジメントサイクルの構築

生徒一人一人がその能力を伸ばし、将来を見据えた進路実現を図るため、「知・徳・体」それぞれの達成目標を各校の学校経営計画に明記するとともに、成果の検証を可能とするマネジメントサイクルを構築します。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
効果的なマネジメントサイクルの構築	マネジメントサイクルの構築に向けた検討	モデル実施	全校実施	

(3) 責任をもって生徒を卒業させる仕組みづくり

就職者や進路未決定者が多いなど、生徒の進路が多様となっている普通科高校（以下、「進路多様校」という。）に在籍する生徒の社会的・職業的自立を支えるため、キャリア教育の充実と基礎学力の定着を軸とした取組を進めるとともに、学校設定教科・科目^{*41}等を活用して職業科目を含む教育課程を編成し、普通科における職業教育を推進します。職業教育の実施に当たっては、地元企

^{*41} 学校設定教科・科目とは、学校及び生徒の実態、学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資するため、高等学校学習指導要領等に掲げられている教科・科目以外に設けた教科・科目のこと。都立学校においては、「奉仕」や「日本の伝統・文化」などが代表的な科目である。

業等と密接に連携するとともに、学校間連携により既存の専門高校の施設やノウハウを活用します。

また、単位制の仕組みを活用して履修形態を弾力化し、生徒の反復学習や修業年限を超えた在籍を容易とするなど、生徒が社会生活を送る上で必要な基礎学力等を確実に身に付けて卒業していく仕組みを構築します。

さらに、都立高校入学前の中学校段階における生徒一人一人の状況を的確に把握し、都立高校での指導に活用することについて検討するなど、中学校との連携を推進し、個に応じたきめ細かい指導を実施します。

ア 進路多様校の改善

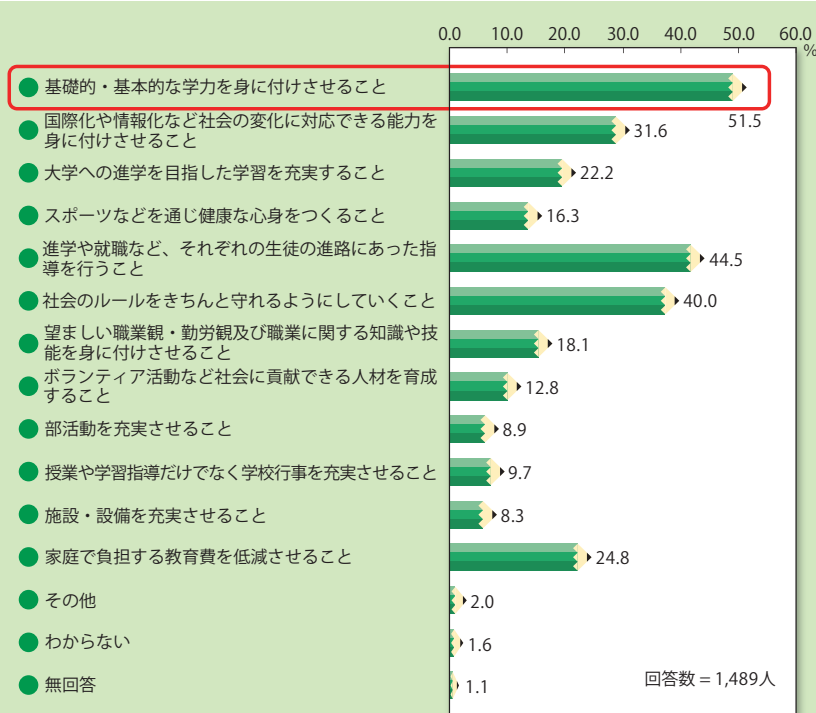
普通科高校に適した職業科目の在り方や、生徒が基礎学力を着実に身に付けることができる仕組み等について、検討組織を設置して検討し、改善を図ります。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
進路多様校の改善	中学校との連携策の検討	→	基本構想の策定	事業計画の策定に向けた調整
	修業年限の弾力化の検討	→		
	普通科高校における職業教育の在り方検討	→		

COLUMN コラム

右のグラフは、平成23年度に都民に対して都立高校に関する意識調査を行った結果です。

「都立高校に特に期待する役割は次のどれですか。(3つに○)」という問いに対し、最も多かった回答は「基礎的・基本的な学力を身に付けさせること」というものでした。この結果から、都民からも、都立高校が生徒に基礎学力を定着させることが求められていることが分かります。



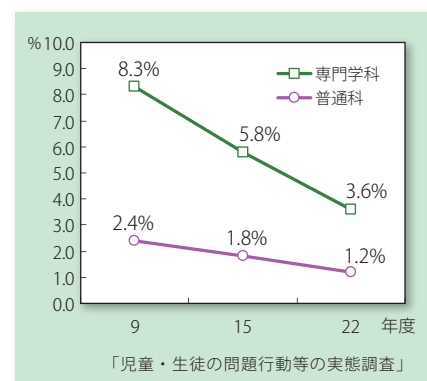
2 専門高校の改善

現状と課題

● 産業構造の変化や科学技術の進展等に伴い、職業は多様化し、職業人に求められる技術・技能は高度化しています。このような状況に対応した人材の育成が求められており、職業教育・専門教育に対する社会の期待は高まっています。しかし、現在の工業科や商業科等の専門高校の教育内容や体制は、社会の変化と期待に十分には応えきれていません。また、生徒の基礎学力の不足などにより、十分な専門教育を実施できていない面があり、生徒に、専門的な技術・技能を確実に身に付けさせる必要があります。

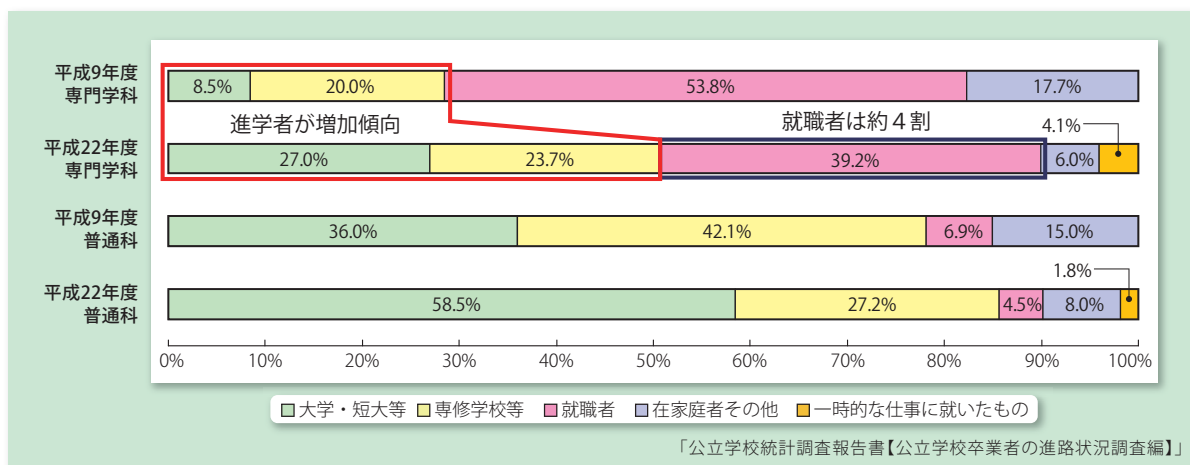
● これまで、学科の改編や産業高校等の新しいタイプの専門高校の設置など、専門高校の特色化を図ってきましたが、工業科や商業科等の専門高校の志望状況は低迷しています。また、生徒が専門高校の教育内容等を十分に理解しないまま専門高校への進学を選択している実態もあり、中途退学者は減少しているものの（図10）依然として多い状況です。

図10 中途退学率の推移（全日制）



● 一方、近年、専門高校から就職する者は、学科によって差異があるものの卒業生の約4割にとどまり、進学者が増加する傾向にあります（図11）、目的意識が希薄なまま進学を選択している生徒も見受けられます。専門高校の特色を理解した上で学ぶ意欲と目的意識をもった生徒を確保するとともに、生徒が希望する進路につなげる支援を充実させることが必要です。

図11 都立高校卒業生の学科別進路状況（全日制）



● 専門高校の教員が企業現場の実態を十分には把握していないなど、実践的な指導力の不足も課題となっています。社会が必要としている人材を育成する魅力ある高校づくりを一層進め、社会の要請に応える専門高校として、その役割を果たしていくことが必要です。


改革の方向

(1) 生徒の技術・技能の習得

社会の期待に応え、将来の東京の産業を支える人材を育成するため、専門高校で学ぶ専門的な知識、技術・技能を、生徒一人一人に確実に習得させ、専門性を向上させることを目指します。そのため、社会で役立つ資格の取得や各種大会への出場などを促進し、生徒の学習意欲と能力の向上を図ります。


ア 専門的な技術・技能の確実な習得

生徒の専門性の向上を図るため、専門高校において生徒が身に付けるべき技術・技能を明らかにします。その上で、各校が、効果的な指導体制を構築して学科や科目の特色に応じた有用な資格の取得を促進するなど、社会が求める専門的な技術・技能を確実に習得させ、就職や進学につなげていきます。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
専門的な技術・技能の確実な習得	習得すべき技術・技能の明示	指定校での試行		全校実施

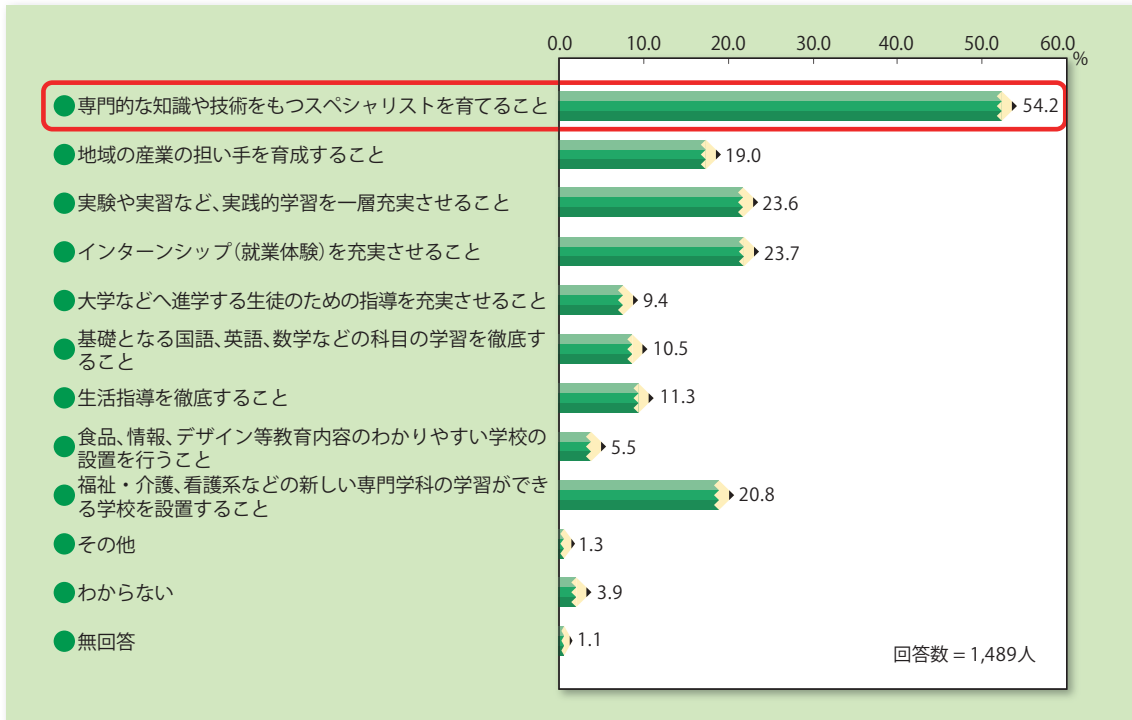
イ 資格取得を促進するための支援

産業社会で通用する人材として必要な資格の取得を促進するため、資格試験に向けた補習・補講等の開設、受験費用の減免等生徒の負担軽減、表彰の実施などの支援策を検討・実施します。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
資格取得を促進するための支援	支援策の検討	順次実施		

COLUMN コラム

次ページのグラフは、平成23年度に都民に対して都立高校に関する意識調査を行った結果です。「これからの都立専門高校の教育で特に取り組むべきことは何だとお考えですか。(2つに○)」という問いに対し、最も多かった回答は「専門的な知識や技術をもつスペシャリストを育てること」というものでした。この結果から、都民からも、都立専門高校が生徒に専門的な知識、技術・技能を身に付けさせることが求められていることが分かります。



(2) 専門高校教員の指導力の向上

企業等の実態に応じた教育の展開など専門教育の質を高めるため、教員の専門的指導力・技術力の向上を図ります。また、教員の就職指導に必要な能力の向上等を図り、生徒の適性に合った進路指導を実践できるようにします。

ア 専門高校教員の専門的指導力・技術力の向上

技術研修や企業への派遣研修の充実、教員の資格取得の促進などにより、教員の専門的指導力・技術力の向上を図ります。特に、教員の専門性を高める一定の研修は悉皆とするなど、計画的な人材育成を図ります。

項目	実施計画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
専門高校教員の専門的指導力・技術力の向上	新研修プログラムの開発等	新研修プログラムの導入等	➔	

イ 専門高校教員の就職指導に必要な能力の向上

教員が企業等を訪問し、企業の業務内容等を把握・研究する機会を拡充するとともに、企業等の情報や就職指導のノウハウを教員間で共有することを促進するための方策について検討し、実施していきます。これらにより、教員の就職指導に必要な能力の向上など、進路指導体制の強化を図ります。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
専門高校教員の就職指導に必要な能力の向上	企業訪問・企業研究の拡充等	➔		

(3) 専門教育の見直し・充実

ものづくり人材の育成など、社会の変化と期待に応える人材の育成を推進し、生徒の能力の伸長と進路実現を図るため、専門高校の教育内容と体制を見直し、魅力ある専門高校づくりを進めます。

産業の動向など社会の変化に対応した専門教育を展開するため、既存の専門高校の学科や規模の在り方について検討します。また、外部人材の一層の活用や、インターンシップ等就業体験の必修化など、企業等と連携した実践的な教育活動を充実させます。さらに、専門高校で学ぶ意欲や目的意識等をもった生徒の入学を促進するため、中学校との連携を強化するとともに、実技試験や面接等の評価の重視など入学者選抜制度の改善を図ります。

ア 専門高校の学科改編等

専門高校の在り方についての検討組織を設置し、企業や生徒等のニーズに応じた学科の改編や新たな学科の設置などについて、規模の見直しも含めて検討を進めます。

3 定時制課程・通信制課程の改善

現状と課題

- 定時制課程の高校は、これまで勤労青少年といった昼間に学校に通うことができない生徒の学びの場とされてきました。しかしながら今日では、勤労青少年だけでなく、不登校を経験した生徒、生活習慣や学習習慣等に課題がある生徒、全日制高校から転学してきた生徒、中途退学を経験した生徒、外国人の生徒、特別な支援を必要とする生徒など、多様な生徒が在籍しており、生徒の状況に応じた指導を行うことが課題となっています。また、定時制課程の高校では、これまで中途退学率が減少してきたものの、全日制課程の高校と比較して、中途退学者や卒業時の進路未決定者が多い状況にあります。
- 社会状況の変化や勤労学生の減少に伴い、働きながら高校の夜間課程において学ぶ生徒のための給食について、その在り方の検討が必要となっています。
- 通信制課程の高校では、スクーリング^{*42}の回数が限られているため、少ない機会での指導を実施しなければならないこと、何らかの事情により学校に通うことができない生徒への対応などの課題があります。

改革の方向


(1) 定時制課程の改善

定時制課程に在籍する多様な生徒を、将来、社会人、職業人として自立した生活を送ることができるよう育成していく必要があります。このため、基礎学力の定着、規範意識や豊かな人間性の育成、キャリア教育の充実による社会性の育成の方法などについて改善し、個々の生徒の状況に応じた指導を実践します。

また、定時制課程の高校に在籍する勤労学生のために設けられた給食の在り方についても検討します。

ア 定時制課程の教育内容・方法の改善

定時制課程に在籍する生徒への指導方法について、検討組織を設置して検討し、改善を図ります。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
定時制課程の教育内容・方法の改善	個々の状況に応じた指導の充実に向けた検討	検討に基づく指導の実施		

^{*42}スクーリングとは、生徒が登校し、教員に直接接しながら指導を受けることであり、通信制課程の高校では、添削指導による教育が行われるほか、スクーリングや試験が実施されている。

イ 定時制課程の給食の在り方の見直し

定時制課程の高校における勤労学生の在籍割合や給食の喫食状況の変化の背景など、給食の在り方を多面的に分析し、提供方法の見直しを図ります。


項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
定時制課程の給食の在り方の見直し	検討	モデル校で実施	検証	本格実施

(2) 通信制課程の改善

定時制課程の高校以上に多様な生徒が存在している通信制課程の高校では、能力や適性に合った多様で柔軟な教育を推進するとともに、生徒とのコミュニケーションを充実させるなど、生徒が意欲的に自学自習できるよう、個々の生徒の状況に応じた指導を実践します。

ア 通信制課程の教育内容・方法の改善

通信制課程に在籍する生徒への指導方法について、検討組織を設置して検討し、改善を図ります。

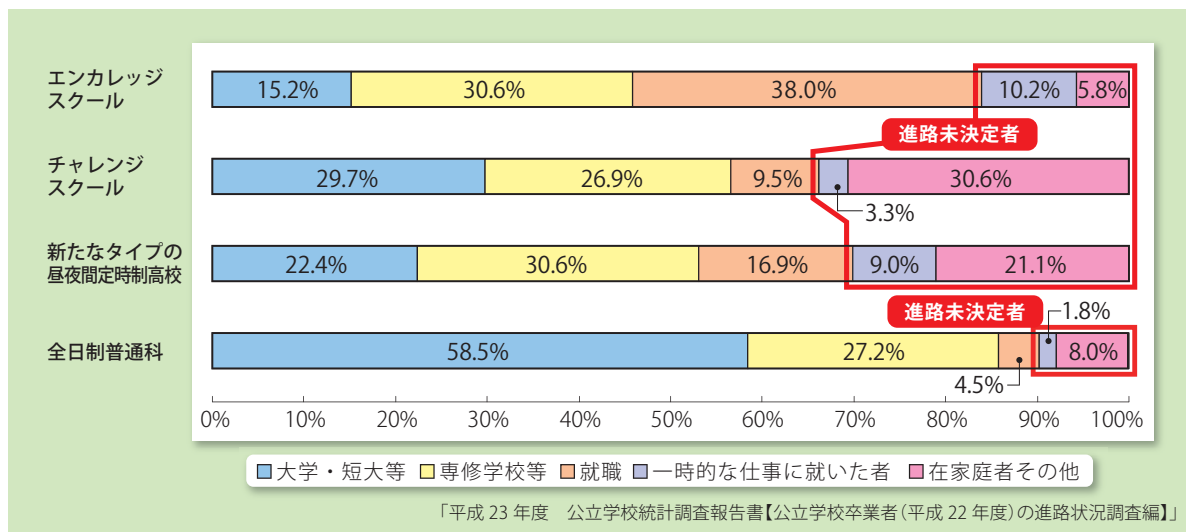
項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
通信制課程の教育内容・方法の改善	個々の状況に応じた指導の充実に向けた検討	検討に基づく指導の実施		

4 多様なタイプの学校の改善

現状と課題

- これまで都立高校では、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等の多様化に対応するため、総合学科高校等の多様なタイプの高校を設置するとともに、エンカレッジスクールの指定など既存校の特色化を進め、高校選択幅の拡大を図ってきました。
- これらの取組により、総合学科高校において生徒の将来や職業に対する意識が高くなっていることや、エンカレッジスクールやチャレンジスクールにおいて入学者選抜の応募倍率が毎年高い状況で推移していることなど、多様なタイプの高校が、都民からも高く評価されていることがうかがえます。
- 一方、総合学科高校において生徒の系列・科目選択に偏りが見られることや、図 12 にあるとおり、エンカレッジスクールやチャレンジスクール、新たなタイプの昼夜間定時制高校において卒業時の進路が未決定の生徒（進路未決定者）が多く存在することなどの課題が明らかとなっています。

図 12 エンカレッジスクール、チャレンジスクール、新たなタイプの昼夜間定時制高校卒業後の進路状況



改革の方向

(1) 多様なタイプの学校の改善

多様なタイプの学校は、求める学校像や教育課程、入学者選抜方法等についてそれぞれ基本計画を策定し、この計画に沿って設置・運営してきました。開設から一定期間が経過し、設置の目的と学校や生徒の実情との間に生じている乖離^{かいり}や、新たに顕在化してきた課題に対応するため、基本計画の修正も視野に課題の検証・改善を行い、これらの学校の質的向上を図ります。

ア 中高一貫教育校の改善

中高一貫教育校においては、生徒間の学力差への対応や6年間を通じた系統的な教育課程の編成が課題となっています。今後、入学者決定における適性検査の在り方や教育課程の特例の具体的運用、意欲や力量のある教員の確保策等について検証し、6年間を通じた計画的・継続的な教育活動を展開することにより、将来のリーダーとなり得る人材を育成します。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
中高一貫教育校の改善	課題解決に向けた検討・検証	順次実施	➡	

イ 総合学科高校・単位制高校の改善

総合学科高校や単位制高校においては、科目選択の自由度が高いことにより、系統的な学力や専門性が身に付かないまま卒業する生徒が存在します。

今後は生徒の学習に対する多様なニーズに対応しつつ、学力や専門性の向上を図るため、卒業単位数や必修科目・選択科目の在り方、履修指導方法などについて見直します。

また、総合学科高校については、設置されている系列について、社会や生徒の今日的なニーズを勘案して見直すとともに、特徴であるキャリア教育を一層充実させるため、校内でキャリア教育の中核となる人材を計画的に育成します。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
総合学科高校・単位制高校の改善	系列や設置科目等の検討	順次実施	➡	

ウ エンカレッジスクール・チャレンジスクール・新たなタイプの昼夜間定時制高校の改善


これらの学校では、基本計画にある様々な取組を進めてきた結果、入学者選抜における応募倍率が高い状況で推移し、また中途退学者数が大きく減少するなど、一定の成果が上がっています。一方、基礎学力の不足などにより進学や就職が困難となっている生徒も存在しており、これまで重視してきた学校への定着という視点だけではなく、卒業後の進路実現という視点をより重視していく必要があります。

今後は生徒の学習意欲を育むとともに、自立の基盤として不可欠な基礎学力の定着や社会性の育成等を軸に、教育課程や教育相談機能、入学者選抜方法等について多角的に検討し、必要な改善を図ります。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
エンカレッジスクール・チャレンジスクール・ 新たなタイプの昼夜間定時制高校の改善	教育課程等の 改善に向けた 検討	順次実施		

エ 多部制の定時制高校の改善

多部制^{*43}の定時制高校では、各部ごとに生徒の登下校の時刻が定められていることなどから、学校行事、部活動などを統一して実施することが難しいといった課題が存在しています。このため、多部制の定時制高校の課題の検証を図るとともに、課題解決に向けた具体的方策について、学校の現状を踏まえながら検討し、必要な改善を図ります。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
多部制の定時制高校の改善	多部制の課題 の検証・検討	順次実施		


(2) 多様なタイプの学校の規模等の適正化

エンカレッジスクールやチャレンジスクール、新たなタイプの昼夜間定時制高校については、入学者選抜の応募倍率が高いことにより、不合格となる生徒が多く存在します。こうした状況の解消を図るため、地域バランスを考慮して、その適正な受入規模等について検討します。

また、エンカレッジスクールにおけるきめ細かい学習指導などのノウハウを、他の都立高校にも普及・拡大していきます。

ア 多様なタイプの学校の規模と配置の適正化

都民ニーズ等を踏まえ、これらの学校の適正な規模と配置について、検討組織を設置して検討します。

項 目	実 施 計 画			
	24年度	25年度	26年度	27年度
多様なタイプの学校の規模と配置の適正化	適正な規模と 配置の検討		基本方針の 策定	事業計画の 策定に向けた 調整

^{*43} 多部制の定時制課程とは、夜間の特定の時間帯に授業を行う「夜間定時制課程」と、昼間の特定の時間帯に授業を行う「昼間定時制課程」を複数組み合わせることで「定時制課程」のことであり、通称である。

これまで設置してきた多様なタイプの学校の一覧

校 種	校数	特 色	設 置 校
中高一貫 教育校	10校	公立学校における中等教育の複線化を図り、6年間の一貫した教育により様々な分野でリーダーとなり得る人材の育成を図る。①中等教育学校、②併設型（附属中学校）がある。また、都立高校と区市町村立中学校との間で連携を深めることによる連携型中高一貫教育も行っている。	①桜修館、小石川、立川国際、南多摩、三鷹 ②白鷗、両国、武蔵、富士、大泉
総合学科高校 （総合学科）	10校	多様な科目を開設して、普通教育と専門教育を総合的に行う学校で、自己の進路への自覚を深めることが出来る科目など幅広い選択科目を開設し、多様な能力・適性等に対応した柔軟な教育を行っている。	晴海総合、つばさ総合、杉並総合、若葉総合、青梅総合、葛飾総合、東久留米総合、世田谷総合、町田総合、王子総合
単位制高校	12校	①多様な学習型 生徒一人一人の個性や特性、進路希望に対応した多様な学習を可能とする教育を行っている。	飛鳥、芦花、上水、美原、大泉桜、翔陽、忍岡、板橋有徳
		②進学重視型 単位制の特質を生かし、生徒の難関大学等への進学希望を実現できる教育を行っている。	墨田川、国分寺、新宿
		③専門型 専門高校で学ぶ生徒の興味・関心等に応じた単位制の特質を生かした教育を行っている。	六郷工科
科学技術高校 （科学技術科）	2校	技術者として生涯にわたり専門性を高めていくために必要な意欲、態度や知識・技能を身に付け技術革新に主体的に対応できる人材を育成するため、大学等に進学し、継続して学習することを前提とした教育を行っている。	科学技術、多摩科学技術
産業高校 （産業科）	2校	生産・流通・消費の基礎と相互の関連を学んだ上で、自己の進路希望に沿った専門教科を学び、幅広い視野と確かな職業観を備えた人間、商工業の知識を基に将来自ら起業を目指そうとする志あふれる人間を育成する教育を行っている。	橘、八王子桑志
進学型専門高校 （ビジネスコミュニケーション科）	2校	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ社会の変化に主体的に対応し、将来、国際社会で活躍できるスペシャリストを育てる教育を行っている。	千早、大田桜台
総合芸術高校 （芸術科）	1校	芸術の各分野において高度な専門性をもちつつ、幅広い教養と豊かな人間性を備えた人材を育成する教育を行っている。	総合芸術 （音楽科、美術科、舞台表現科）
特色化を進める 工業高校	2校	多方面のニーズに応えるために工業の基礎・基本や体験的学習を重視し、ものづくりを通して優れた社会性や豊かな人間性を育む教育を行っている。	墨田工業、総合工科
チャレンジ スクール （定時制・総合学科）	5校	小・中学校時代に不登校経験をもつ生徒や高校の中途退学者等を主に受け入れる総合学科・三部制（午前部・午後部・夜間部）の高校で、3年での卒業も可能である。	桐ヶ丘、世田谷泉、大江戸、六本木、稔ヶ丘
昼夜間定時制高校 （単位制）	6校	単位制で昼夜開講多部制の高校である。様々な進路希望に対応した多様で弾力的な教育を行っており、3年での卒業も可能である。	一橋、浅草、荻窪、八王子拓真、新宿山吹、砂川

進学指導重点校	7校	進学実績の向上を目指し、既存校の中から進学指導重点校として指定し、やる気と熱意のある教員の重点配置などの支援を実施している。	日比谷、戸山、西、八王子東、青山、立川、国立
進学指導 特別推進校	5校	進学指導重点校レベルの進学実績を目指し、進学指導特別推進校として指定し、やる気と熱意のある教員の重点配置などの支援を実施している。	小山台、駒場、新宿、町田、国分寺
進学指導推進校	14校	進学指導特別推進校に次ぐ大学合格実績を上げる学校の中から、地域ニーズ・地域バランスや学校の取組状況等を総合的に勘案し、指定している。	三田、国際、豊多摩、竹早、北園、墨田川、城東、小松川、武蔵野北、小金井北、江北、江戸川、日野台、調布北
エンカレッジ スクール	5校	これまで力を発揮できなかった生徒のやる気を育て、社会生活を送る上で必要な基礎的・基本的学力を身に付けることを目的として、既設校の中から指定している。	足立東、秋留台、練馬工業、蒲田、東村山

